

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 21 年 2 月 12 日 (2009.2.12)

【公開番号】特開 2006-183050 (P2006-183050A)

【公開日】平成 18 年 7 月 13 日 (2006.7.13)

【年通号数】公開・登録公報 2006-027

【出願番号】特願 2005-368009 (P2005-368009)

【国際特許分類】

C 0 8 G 18/65 (2006.01)

C 0 8 G 18/32 (2006.01)

【F I】

C 0 8 G 18/65 Z

C 0 8 G 18/32 A

【手続補正書】

【提出日】平成 20 年 12 月 19 日 (2008.12.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 3】

本発明によれば、有機ジイソシアネート (a 2) として使用するのに好適な化合物としては、以下の脂肪族ジイソシアネートが挙げられる：エチレンジイソシアネート、1, 4 - テトラメチレンジイソシアネート、1, 12 - ドデカレンジイソシアネート、脂環式ジイソシアネート、例えば、イソホロンジイソシアネート、1, 4 - シクロヘキサレンジイソシアネート、1 - メチル - 2, 4 - シクロヘキサレンジイソシアネートおよび 1 - メチル - 2, 6 - シクロヘキサレンジイソシアネート、さらに対応する異性体混合物、4, 4' - ジシクロヘキシルメタンジイソシアネート、2, 4' - ジシクロヘキシルメタンジイソシアネートおよび 2, 2' - ジシクロヘキシルメタンジイソシアネート、さらに対応する異性体の混合物。成分 (a 2) が、1, 4 - シクロヘキサレンジイソシアネート、イソホロンジイソシアネートおよび / またはジシクロヘキシルメタンジイソシアネートを含むことが好ましい。上に定義されたジイソシアネートは、個々にまたは互いの混合物の形態のいずれかで好適に使用し得る。それらがまた、15 モル % まで (イソシアネート成分 (a) 100 モル % に基づく) のポリイソシアネートと共に使用されてもよい。添加されてもよいポリイソシアネートの最大量は、熱可塑的に作業可能な生成物を生じる量である。成分 (a 2) から 1, 6 - ヘキサメチレンジイソシアネートを除外する。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 4】

本発明の連鎖延長剤 (b 1) として使用するのに適切な化合物としては、例えば、以下からなる群から選択されるジオールが挙げられる：1, 2 - エタンジオール、1, 3 - プロパンジオール、1, 4 - ブタンジオール、1, 5 - ペンタンジオール、1, 6 - ヘキサジオール、1, 10 - デカンジオール、1, 12 - ドデカンジオール、ジエチレングリコール、ジプロピレングリコール、テレフタル酸ビス (エチレングリコール)、テレフタル酸ビス (1, 4 - ブタンジオール)、1, 4 - ジ ( - ヒドロキシエチル) ヒドロキソ

ン、および 1, 4 - ジ ( - ヒドロキシエチル ) ビスフェノール A。成分 ( b 1 ) として使用するのに好適なジオールとしては、例えば、1, 2 - エタンジオール、1, 3 - プロパンジオール、1, 4 - ブタンジオール、1, 5 - ペタンジオール、1, 6 - ヘキサンジオール、1, 10 - デカンジオール、1, 12 - ドデカンジオールが挙げられ、ジエチレングリコールおよびジブロピレングリコールが好ましく使用される。しかし、( b 1 ) として使用するのに好適なものは、例えば、2 ~ 4 個の炭素原子を有するグリコールとテレフタル酸とのジエステル、例えば、テレフタル酸ビス ( エチレングリコール ) およびテレフタル酸ビス ( 1, 4 - ブタンジオール )、ヒドロキノンのヒドロキシアルキレンエーテル、例えば、1, 4 - ジ ( - ヒドロキシエチル ) ヒドロキノン、およびエトキシル化ビスフェノール、例えば、1, 4 - ジ ( - ヒドロキシエチル ) ビスフェノール A である。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0020】

好適なポリエステルジオールとしては、例えば、2 ~ 12 個の炭素原子、好ましくは 4 ~ 6 個の炭素原子を有するジカルボン酸と、多価アルコールとから調製されるものが挙げられる。好適なジカルボン酸として、例えば、以下の化合物を挙げることができる：コハク酸、グルタル酸、アジピン酸、コルク酸 ( スベリン酸 )、アゼライン酸およびセバシン酸などの脂肪族ジカルボン酸、またはフタル酸、イソフタル酸およびテレフタル酸などの芳香族ジカルボン酸。ジカルボン酸は、個々に、または混合物の形態で、例えば、コハク酸、グルタル酸およびアジピン酸の混合物の形態で使用されてもよい。